

すべての人に優しいユニバーサルデザインの推進

文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いに関わらず、出来るだけ多くの人が利用できることを目指した建築・製品・情報などの設計をユニバーサルデザインといいます。

身近にあるユニバーサルデザインとしては、ドアを自分で開けることが難しい高齢者や子ども、車椅子の方などにとってとても便利な自動ドア・歩道や公園の出入り口の段差解消・多機能トイレ・シャンプーの容器の突起・料金投入口の大きい自動販売機・点字がついたアルコール飲料(カン)・日本でも急速に導入が進んでいる車いすでも乗りやすいノンステップバス・子どもや外国人にも分かりやすいように人や物を単純化しマークで表したピクトグラム表示・握力の弱い人でも使いやすいレバー式の水道の蛇口など1980年代に提唱されてから一気に増えてきています。

～カラーユニバーサルデザイン～

人間の色の感じ方は一様ではなく、遺伝子のタイプや様々な目の疾患によって色の見え方が一般の人と異なる人が多く存在します。この中でいわゆる色弱者と言われる人は、日本では男性の20人に1人、女性の500人に1人とされています。こうした多様な色覚を持つ様々な人に配慮して、全ての人に情報が正確に伝わるように配慮されたデザインをカラーユニバーサルデザインと言います。